

天理山古墳群の保存・活用について

所管事務調査報告書

令和6年(2024年)12月23日

京田辺市議会
総務常任委員会



はじめに

天理山古墳群は2020年12月に薪地区にて古墳群が発見され、2021年4月の埋蔵文化財発掘調査の結果、前方後円墳の古墳であることが確認されたことから土地の取得がなされた。

所管事務調査では、当該古墳群の保存や今後の活用について、有識者との意見交換や先進地自治体への視察を行い調査報告をまとめた。

1. 調査事件名

天理山古墳群の保存・活用について

2. 調査の目的

天理山古墳群の史跡広場整備計画策定を中心に、進捗状況の点検と、先進地視察、関係団体との懇談などを行い、委員会の理解を深めるとともに、計画の課題、方向性について、意見をまとめる。

3. 調査の経過

令和5年 6月 9日	委員間討議(調査テーマ検討)
令和5年 6月28日	委員間討議(調査テーマ決定)
令和5年 8月 4日	委員間討議(調査方法等検討)
令和5年 8月 9日	委員間討議(研修会質疑等検討)
令和5年 8月29日	有識者との意見交換会
令和5年 9月19日	委員間討議(先進地視察等検討)
令和5年12月12日	委員間討議(先進地視察等検討)
令和6年 2月 2日	先進地視察(長岡京市)
令和6年 3月 6日	委員間討議(長岡京市視察内容)
令和6年 4月26日	委員間討議(調査進捗確認)
令和6年 5月 8日	委員間討議(先進地視察等検討)
令和6年 6月19日	委員間討議(先進地視察等検討)
令和6年 7月12日	現地視察(発掘調査現地視察)
令和6年 7月22日	先進地視察(高槻市)
令和6年 8月 6日	先進地視察(田原本町)
令和6年 9月17日	委員会(執行部質疑) 委員間討議(報告内容検討)
令和6年10月17日	委員間討議(報告内容検討)
令和6年11月 8日	委員間討議(報告内容検討)
令和6年12月11日	委員会(報告書まとめ)

4. 有識者との意見交換会



日時 令和5年(2023年)8月29日(火) 午後1時半～午後3時半

場所 京田辺市役所 5F 会議室

講師 鈴木 重治 氏

2023年8月29日に、京田辺市内にお住まいでの、同志社大学講師・日本考古学協会シニアフェローの鈴木重治さんをお招きし、「天理山古墳群の保存、活用について」をテーマに講演していただいた。その主な内容は以下の通り。

・考古学は旧石器時代から昨日まで(現代)を対象にしたものであり、そうでないと個々の遺跡の意義はつかめない。遺跡周辺の土地利用の移り変わりも、地域によって異なっており、差がある。それは、その地域の文化としてとらえることができる。

この点では、いわゆる「文化財ツーリズム」について、それを地域の文化力に関わる問題としてとらえ、見学ルートなど地域の環境全体を整備することも視野に考えていくことが必要。そのためにも住民の声をよく聞いて進めることができることの大切。

・一般的に言って、古墳と古墳群について、被葬者のはつきりしている古墳は少ない。天理山古墳の名称について、それでいいのかも考えるべきではないか。あの一帯は元は薬師様をまつる甘南備寺があり、薬師山と呼ばれており、戦時中は高射砲陣地が設置されていた。古墳群としてとらえれば、首長墓としての天理山古墳と、その周辺のなくなった古墳なども含めて一体的にとらえるべきで、一休ヶ丘古墳群と言うこともできる。

・地域の歴史遺産は地域住民や研究機関などがどう関わるのかが大切になる。古墳の現地調査もしっかりやり、形や大きさ、副葬品や特徴などをしっかり確認すべきで、それらの研究や学習を住民と一緒に進めていくことも大事。

5. 現地視察 長岡京市



日時 令和6年(2024年)2月2日(金) 午前10時～午前11時40分

場所 長岡京市議会第1委員会室及び現地(恵解山古墳公園)

講師 教育部 文化財保存活用課長 辰巳 祐樹

2024年2月2日、長岡京市において「恵解山古墳公園の保存と活用」をテーマに視察研修を行った。現地到着後、長岡京市議会第1委員会室にて担当課から、古墳の保存・活用についての概要やこれまでの経緯、現在の運営についての説明をしていただき、その後、現地にて見学を行った。

古墳は住宅地に立地しており、記念碑とはにわが設置され、主に近隣住民のイベントや市民の憩いの場(公園)として活用している一方で、資料館や駐車場、トイレがなく、観光利用は進んでいない。

また古墳から発掘された、刀剣などの鉄製武器約700点が納められた前方部中央の埋納施設は全国的に珍しいものとされており、当時の状況を再現したそのレプリカが現地に展示されている。

質疑応答

質問

頂上部が墓地となっているが、その理由や地元地域での伝承などはどういうものだったのか。土地所有の推移などは、どのようなものか。

回答

勝竜寺村の墓地。古墳の発掘調査によって、山崎合戦の陣を置くために改変を受けたことがわかつており、曲輪となった平場を江戸時代初期頃に墓地として再利用されたと考えられる。

土地は勝竜寺地区と久貝地区に分かれており、計55筆(国・市有地含む)。昭和56年度から平成14年度まで用地取得(平成14年度に先行取得)

質問

国の史跡指定にいたる経過と、整備実施期間前(2011年以前)の取り組みなどはどうされていたのか。

回答

- ・1980年4月に墓地の造成工事により緊急調査を開始し、鉄器埋納施設を発見。
- ・急遽、文化庁・京都府と協議し、1981年10月国の史跡に指定。
- ・S56～H14年度 用地の公有化
- ・H14～15年度 基本構想の策定
- ・H16～17年度 基本計画の策定
- ・H18年度 保存整備委員会の設置
- ・H22年度 基本設計
- ・H23年度 実施設計の策定
- ・H23～26年度 保存整備工事

→講演会(H18年～25年度)やシンポジウム、特別展示なども並行して行った。

質問

整備にいたる計画と、地元など周辺地域における受けとめ、課題は。

回答

- ・保存整備委員会の委員に地元自治会長を任命し、地元の意見の集約した。
- ・基本構想ではガイダンス施設を設置予定であったが、見直しにより公園のみになった。
- ・地元の要望によりトイレの設置が困難。
- ・補助金が交付されないなど予算の確保が難しく、新たな土地取得が見込めず、当初予定していたガイダンス施設が無くなったことにより、駐車場用地がなくなった。

質問

景観保全との関係、樹木の伐採などについて、どうだったのか。

回答

- ・隣接する小学校の校歌に「みどり豊かな恵解山～」という歌詞があり、植栽を重視した整備を計画。
- ・墓地を隠す生垣、墓地らしい景観の要望により樹木を残す整備を行った。
- ・地元の子供たちがタケノコ栽培を学習するスペースとして竹林区域を整備した。

質問

費用について、総事業費と、その概略的な内訳(用地買収があればその費用、周辺の工事費用、ソフト面での保存、整備費用など)及び、その財源内訳。

回答

- ・用地取得事業費：13億5077万8千円(国庫補助金：80%)
- ・保存整備費：3億9728万5千円(国庫補助金：50%)

質問

基本的な方針と、小中学校での地域の歴史学習での活用や、観光、まちづくりでの活用などについて、どうされているのか。

回答

- ・近隣の小中学校や立命館中学高等学校などが地域学習の場として活用している。
- ・NPO法人長岡京市ふるさとガイド会や(公財)長岡京市埋蔵文化財センターが出前授業などを行っている。
- ・JR長岡京駅と阪急西山天王山駅を結ぶまち歩きルートの拠点の一つとして活用されている。

質問

遺跡発掘物の保存と活用、その場所などの整備について、どうされているのか。

回答

- ・市での発掘調査は(公財)長岡京市埋蔵文化財センターが実施しており、センターでの展示等で公開している。1985年に開所した施設であり、老朽化が課題となっている。
- ・保管については、同センター収蔵庫及び別場所に2か所の収蔵庫を確保しているが、すでに飽和状態であるため、追加の収蔵庫を検討中。

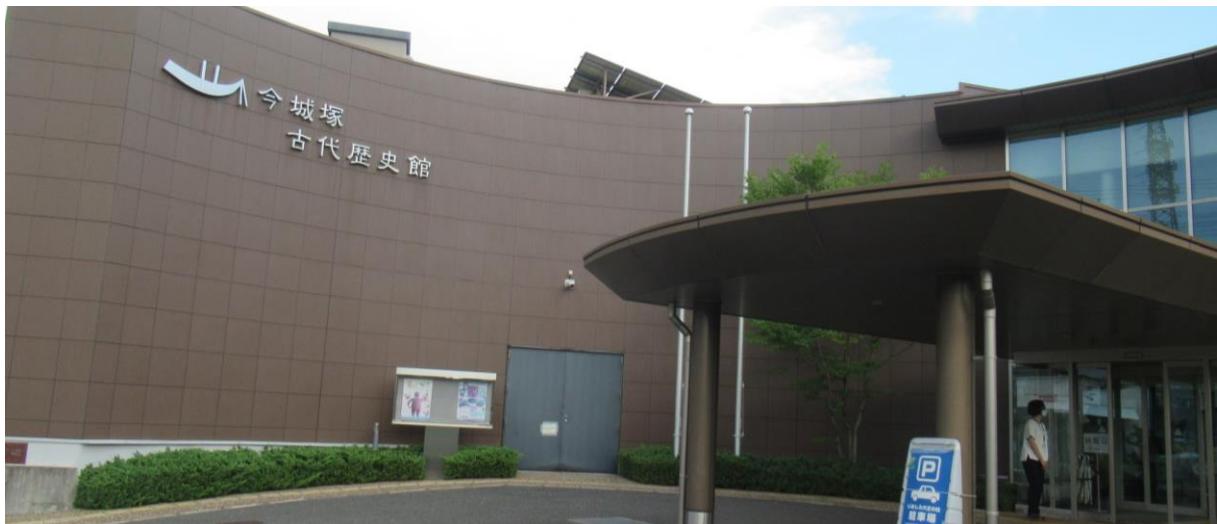
質問

今後の調査について、計画などされているのか。

回答

- ・恵解山古墳については、整備前に完了している。しかし、整備から10年が経過し、破損している箇所や利用状況に合わせた再整備などを必要としており、工事に伴う調査等は必要となる。
- ・また現在は乙訓古墳群全体の古墳データを整理するため、指定されている古墳について順次再調査を進めている。
- ・古墳のデータの収集は最小限の掘削で最大限の保存を進めている。

5. 現地視察 高槻市



日時 令和6年(2024年)7月22日(金) 午後2時～午後4時

場所 今城塚古代歴史館会議室及び現地(今城塚古墳)

講師 館長 宮崎 康雄

2024年7月22日に大阪府高槻市を訪問し、今城塚古墳と今城塚古代歴史館が一体となった「いましろ大王の杜」を視察研修した。高槻市は人口346,189人、101,647世帯(2024年3月末)で、歴史も古く市内には主な史跡だけでも、弥生時代の環濠集落跡や今城塚古墳など古墳時代のもの、戦国時代の山城である芥川城跡など6つある。

今城塚古墳が国による史跡指定を受けたのは1958年で、その当時は古墳周辺一帯はほとんどが民有地であり、1970年から周辺の土地の公有化に着手され、1985年に公有化率が50%を越えたのを機に整備の考え方、留意点などをまとめ、以降の整備の指針となった「史跡公園今城塚古墳整備基本計画報告書」が作成されている。

1997年から本格的な発掘調査が始まる。2001年に公有化率80%を越え、それまでの発掘調査の成果も踏まえて「史跡今城塚古墳整備基本計画改訂版」がまとめられ、2003年に「史跡今城塚古墳整備基本設計」が策定され、古墳の保存と復元の方向、体験学習施設(古代歴史館)や便益施設(休憩所、トイレなど)、駐車場などの整備方向が出された。

この間、発掘調査は1997年から2006年までの10年間、第10次にわたって行われた。調査の節目にあわせて計11回の現地説明会も開かれ、その参加者は多い時には4千～5千人もあったそうで、延べ参加者数は28,133人になった。丁寧な発掘調査を重ねることによって、今城塚古墳の特徴が明らかになっている。

今城塚古墳の整備と古代歴史館の建設工事は2004年から始まり、古代歴史館は2010年末に完成し、2011年に全体が完成となっている。その期間を通じて、広く市民が古墳に親しめるように、また整備事業にも市民が参加できるような努力や工夫がされていた。

そして整備後も、周辺地域の方々の憩いの場として、自由に入出ができる、古墳敷地内にある広場では、音楽イベントも開かれることもあるそうで、市民誰もが自由に、気軽に訪れる場所になっている。

今城塚古墳整備と、古代歴史館の整備を合わせた総事業費は85億1222万3356円とのことで、主な内容は、今城塚古墳整備事業(発掘調査関係約2億4656万円、古墳整備約18億2164万円、古代歴史館関係約20億8390万円)として約41億5211万円で、その財源として国の補助金が約12億8734万円、残りは一般財源です。他に用地費として約43億2658万円があります。用地費は8割が国の補助金で対応した。

5. 現地視察 田原本町



日時 令和6年(2024年)8月6日(火) 午前9時45分～午前11時50分

場所 道の駅「レスティ唐子・鍵」会議室及び現地(唐子・鍵遺跡)

講師 町長 高江 啓史
議長 植田 昌孝
教育長 山田 忠志
教育部長 森 淳一
建設部長 田邊 義巳

2024年8月6日に奈良県磯城郡田原本町を訪問し、1999年に史跡指定された「唐子・鍵遺跡」及びその遺跡を観光振興として施策展開する道の駅「レスティ唐子・鍵」を視察研修した。磯城郡田原本町は人口31,470人、13,635世帯(2024年9月末)で、毎年100人規模で人口減少が続く町である。

奈良県北部に位置する田原本町には多くの貴重な文化財を後世に引き継いでいくため、適切な保存、管理を進めるとともに、多くの人に文化財の魅力に触れてもらえるよう、その活用にも取り組みを進めている。

唐古・鍵遺跡史跡公園については、2023年から第2期指定管理者により、道の駅「レスティ唐古・鍵」との一体運営を行うことで、史跡と道の駅の連携を密にし、コミュニティの場として賑わい創出に向けた活用と、来園者が過ごしやすい場の提供を行っている。

唐古・鍵考古学ミュージアムの運営事業の一つとして、WEB上で閲覧することができるバーチャルミュージアムを公開している。これは県内初となる新たな取組みで、国の重要文化財指定品である唐古・鍵遺跡の出土品や、昨年全国的に話題となった宮古平塚古墳の復元、出土埴輪などを、3DモデルとしてWEB上で公開するなど、広く町の文化遺産の魅力に触れる機会の創出に向けた事業を推進している。

また併せて、学校における副読本の活用や小学校への出前授業の実施により、ふるさと田原本への郷土愛を育み、地域への愛着の醸成を図る取り組みも並行して進めている。

1982年に史跡指定の検討に着手し、17年後の1999年に史跡指定を受け、用地買収に19年間を費やし総額約34億円規模の事業を進める一方で順次史跡公園として整備を進めている。2015年には「国史跡唐子・鍵遺跡保存管理計画書」を策定し、2年後の2017年には「唐子・鍵遺跡史跡公園活用基本方針」を策定し、翌年の2018年に道の駅及び史跡公園をオープンしている。

施設の概要

1. 唐古・鍵遺跡史跡公園

コンセプト……「現代に弥生時代の風景を再現する」
「この地で行われたであろう事柄を追体験し、学習する」
整備内容……全体を5つのエリアに区分
復元建物は使用しない
周囲の山並みを景観に取り組む
来園者数……541,394人(H30～R4の合計)

管理運営……指定管理

その他

- ①史跡公園の目標と、目標実現のための5つの柱を定め、これを踏まえて活用基本方針を策定
- ②拡張現実技術(Augmented Reality他)を活用した建物復元

2. 道の駅「レスティ唐子・鍵」

コンセプト……「県中南地域及び和歌山地域への広域的観光の玄関口」
来館数……1,232,720人(H30～R4の合計)
管理運営……指定管理

町の文化財保存と活用の方向性

①住民による活用……住民が「価値」を共有する活用
住民を核としたボランティア団体による活用
既存のボランティア団体に加え、史跡公園専属のボランティア団体を組織化

②行政による活用……「価値」を伝承する活用
町内小学6年生対象の総合的学習に活用
「火おこし」「赤米炊飯」「土器野焼き」のメニューを実施

③指定管理者による活用……様々な視点の「価値」を探す活用
事業者の「強み」を生かした情報発信や米作り体験、唐子・鍵遺跡のガイドツアーの実施

④学術的活用……新たな「価値」を生み出す活用
考古学者をはじめ地質学者、農学者、学生等が協働した研究活動の実施

⑤一般イベントでの活用

3. まとめ

①当該遺跡は専門家においては有名な歴史遺産であったが、住民にとってはその認識はなかった。1982年から始まった史跡指定に向けた取り組みや史跡指定、保存活用など必ずしも住民の理解の下に行われたとは言えなかった。

②史跡整備後にどのような活用をしたいのかといったビジョンが明確でなかった。政策決定段階で十分な議論が不足していたため、後においても史跡に対する住民の想いと行政の想いが乖離していた。

③当該施設を行政主体で活用するには人的、財政的に限界がある。そのため、多様な主体に働きかけるとともに関係者のモチベーションと連携が必要である。

④行政は時には主体となって活用を行いつつも、関係機関調整や技術的、知見的支援、さらには「価値」の伝承と創出の役割が期待される。

6. まとめ



総務常任委員会では、「天理山古墳群の保存、活用について」をテーマにした事務調査として、2023年6月以降、上記の学習会や先進地への視察研修、執行部への質疑や委員間討議などを行った。

それらを踏まえ、天理山古墳群の保存と活用において、以下の点に留意して、今後の事業を進められるよう提案する。

1:事業全体を通して市民の理解と参加を得ながら進める。

天理山古墳群の保存と活用については、今後、一定の期間にわたるとともに、すでに執行されている用地取得をはじめ、今後の史跡調査や整備などで多額の予算を要する事業にもなると考えられる。一方で、周辺の自然環境や住環境の保全にも十分な配慮をしながら、進めることが必要となる。

そのため、多くの市民から事業への理解と協力がえられるように、天理山古墳群の歴史や、それが京田辺市にとってもつ意義などを広く知ってもらう活動をはじめ、整備の具体的な内容に、市民の意見や要望、声を広く反映させることが大切になる。

今後の調査や整備の各段階において、この点を重視して、取り組むことを要望する。

2:周辺も含めた丁寧な史跡調査を行う。

天理山古墳群は以前からその存在は知られていたが、2つの前方後円墳が近接しているなど、最近の調査でその特徴の一端が明らかになったばかりである。

この点では、これらの古墳群の歴史的な価値や特徴などを明らかにするための調査を行うことが必要であり、また、そのためには長期にわたって丁寧な調査をおこなうことを視野に入れた取り組みをしていくことを要望する。

3:酬恩庵一休寺はじめ周辺地域との調和や連携に特段の配慮をする。

天理山古墳群のすぐ近くには酬恩庵一休寺（以下、酬恩庵）があり、酬恩庵はじめ周辺地域と天理山古墳群との歴史的な関連についても可能な限り調査していくとともに、それぞれの史跡の特徴を踏まえた対応が必要となる。

また今後の整備にあたっても、酬恩庵との調和と連携がとれるように配慮して取り組むことを要望する。